

元気おおとよは、
大豊町を元気にするための
民間の団体です！

2016 新年号

元気おおとよ新聞

発行元：特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org> 平成28年1月1日発行 No.12

新年の御挨拶

新年 あけまして おめでとうございます。

本年が皆様にとって幸多い年でありますよう心からお祈り申し上げます。
本年も「NPO法人元気おおとよ」へのご支援やご鞭撻をどうかよろしくお願いいたします。あわせて、この「元気おおとよ新聞」のこれまで同様のご愛読をよろしくお願いいたします。

昨年は、念願の事務所を大田口に置くことができ、地域おこしなどの研修会への参加、移住支援や空き家の調査、高知工科大学との共催による婚活イベント、大豊ガレットの販売や普及促進、そして新聞の発行などの事業に取り組み一定の成果をあげることができました。若者の会員が増えたこともありがたく嬉しいことでした。月2回の例会も活発で時間を過ぎての話し合いもたびたびでした。

今年は、三段跳びに例えると、スタートと助走に続くホップの年かなと思っています。「つなぐ、つたえる、たすけあう」「元気なおおとよ」に向かって、最初のひとつ跳びにしたいものです。ほとんどの会員が仕事を持つての活動で制約も多くありますが汗と知恵を出し合ってがんばりたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

理事長 下村守正

移住者紹介のコーナー



移住者にインタビューしてきました！
今回は愛媛県久万高原町から佐賀山地区に移住をされた佐藤さんご夫婦をご紹介します！

佐藤さんご夫婦は、自給的な生活をしたいと思っていた時、高知市

内で行われていたオーガニックマーケットで大豊町を知り、「自然に囲まれ、静かに時を過ごせる大豊町が気に入った」と、11月に移住をしてこられました。

実際に大豊町に住んでみると、「畑も近くに借りることができ、とても住み心地が良い」とお気に入り。

「自給的な生活を営みながら、以前から行っていた草木染めを楽しんでいます。これからもよろしくお願いします！」と、嬉しそうにおっしゃっていました。またひとつ、大豊町に元気が増えました。これからも大豊町の元気を紹介していきたいと思います。（中平拓海）

第1回 手作り収穫市



昨年10月18日（日）、平成27年度大田口校下民運動会の会場をお借りして、住民の方々の育てたり作ったりしたものを販売する市を開催いたしました。収穫の合間の時期にもかかわらず多くの出品をいただきました。また、「ゆとりファーム」や「れいほく八菜」からもご支援をいただきました。会場の設営や後始末のお手伝いなどを含め、ご協力いただいた皆様にご心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後「つたえ、つなげる」事業になるよう取り組んでいきたいと考えています。（鄙（ひな））

おおとよ “やまこん” 開催しました！



昨年の12月5日と6日（土日）に山の中で合コンを開催しました。題して“おおとよ やまこん”！！です。この企画は、高知工科大学学生と元気おおとよとの共同企画という形で始まったものです。

「山の暮らしを通して新しい“つながり”をつくろう！！」をテーマに、梶ヶ森の山頂より少し手前、佐賀山地区で農業、民宿、畜産を営むレーベンさんを舞台として、県内外の女性4名（遠くは東京から）が2日間、石窯ピザ作りや炭焼き体験、BBQなどを通して大豊の男性4名と交流を深めました。

初日、始めは緊張する男女たちでしたが、ゲームで場を和ませた後、初日のメインイベントである石釜によるピザ作りを行いました。みんなでワイワイおしゃべりをしながら手作りピザをアツアツの石釜で焼き上げ、食べる頃になると男女ともに打ち解けて自然な会話が出始めていました。そのままの流れで交流会に入り、参加者同士も話

しが弾み気がつけば午前1時半、夜中遅くまで楽しんだ参加者とスタッフでした。

2日目。この日のメインイベントである炭焼き体験を行いました。今回は事前に焼いていた炭が釜の中に残っていたので、まずは炭を取り出すところから始めます。土壁を壊し、中の炭が現れた瞬間、参加者の中からも歓声が起こりました。出来上がった炭を袋に詰め、参加者とスタッフでバケツリレーをしながらテンポ良く運んでいきました。その後は用意していた木を釜に詰めて火をつけたところで体験終了。体験というよりもしっかり働いたという感じで参加者もスタッフも若干疲れが見えるくらい本格的な体験を味わっていただきました。

昼食はバーベキューでお腹を満たし、最後に参加者同士が全員とメッセージカードを交換して今回の“やまこん”は解散しました。

この“やまこん”は、企画段階から告白タイムなどの緊張する場面を設けず、男女の交流を通して、自然な形でカップルができたらいなという話を大学生たちとしていたもので、読者の方々には少し物足りないかもしれませんが、スタッフの我々も、参加者がどういうメッセージをお互いに送りあったかはわかりません。ただ、この企画は次回の開催も予定しています。今後、やまこんを通して大豊らしさを知ってもらおう中で、男女のご縁があることを我々は願っております。（猪野大助）



協力隊1号山崎の貯金法



ジビエグルメフェスタ2015



たのです。鹿肉はもちろん「猪鹿工房」さんから仕入れました。「鹿ロール」は今のところ、ジビエフェスタのみの販売になりますが、ゆくゆくは定番メニューにしていけたらと考えています。

「おおとよガレット」は、店舗を持たず、イベントへの出張のみを行っています。大豊町内及び嶺北、高知市周辺（車で1時間30分ほどの範囲）のイベントへ出店し、大豊町並びに「NPO法人 元気おおとよ」のPRも兼ねた(※)資金獲得を目的としています。大豊町のことを多くの方に知ってもらい興味を持ってもらうため、店頭では「元気おおとよ新聞」を配布したり、食材について説明したりとできるだけお客様とコミュニケーションをとるようにしています。いつれは大豊産のそば粉を使用し、食材もすべて大豊・嶺北・高知産で賄うことを目指しています。碁石茶や銀プロウなども、今後ぜひ取り入れていきたい食材です。

「おおとよガレット」の出店依頼、食材の提供などを含め、「NPO法人 元気おおとよ」では、一緒に活動してくれる会員や活動を支援していただける会員も募集しています。今後とも皆様のご理解・ご支援をよろしくお願いします。（野田由美子）

（※）経費を除いた利益は、NPO法人が町内外にむけて様々な活動を行うための活動費に当てさせていただきます。（NPO法人が利益を得ることは、違法ではありません）

27年度 移住相談・移住実績

▼移住相談 ～途中経過～（12/10現在）
4月～11月・・・35件
（電話・メール・来町）

▼移住実績
実績・・・7件（13名）
予定・・・3件（6名）（3月末までに転入）

▼移住元
高知市、高知県内、四国内、近畿、関東など

▼移住先地域
葛原、大王下、穴内1区、日浦、東土居、佐賀山など

空き家に関する情報を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

電話 **080-8635-2253**

担当：野田

受付 9:00～19:00

登山日記（その一）



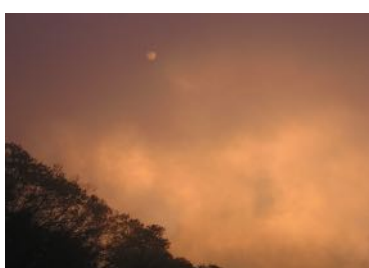
写真①



写真②



写真③



写真④

初めて登山靴を買って登ったのは紅葉に彩られた寒風山でした。2002年10月13日のことです。高知県側から桑瀬峠の急登を登り辿り着いた寒風山（写真①）では、自分の影に丸く虹のような光の輪が現れる珍しいブロッケン現象が出迎えてくれました。（写真②）

寒風山からは西隣りにある笹ヶ峰を目指し縦走しました。（写真③）この日は雲が湧き上がりダイナミックに変化し続ける風景を楽しむことができました。時折視界が開けて見える山容は雲一つない天気より最高なものでした。

笹原に覆われた笹ヶ峰にたどり着いた時には日が傾き、辺りのガスはオレンジ色に染め上げられ、落日しようとする太陽に見とれました。（写真④）しかしゆっくりは出来ません。今日の目的地はそこから西条市の方向に少し降りたところにある丸山荘です。

笹ヶ峰から下り始めると赤い屋根と庭に見える太陽光パネルが目印の丸山荘が見えてきます。（写真⑤）途中には妖艶な姿をした枯れ木（ダケカンバ?）がありました。（写真⑥）この笹ヶ峰に登るたびに、だんだんと細かい枝から折れていくこの枯れ木を写真に収めてきました。しかし今年見に行くとついに根本からポッキリと折れてしまっていました。13年前に初めて会ったこの枯れ木を想うと、出会った時には既に枯れていたのになんとか悲しみを感じ、この記事を書くに至ったのです。-つづく-

（杉本和也）



写真⑤



写真⑥

編集後記

元気おおとよ新聞 新年号はいかがでしたか？
今号は 昨年に開催したイベントの記事がもりだくさんでした。記事が多い分写真が少なくなってしまうのが悩みの種です。（笑）
元気おおとよの活動も9年目に入り 新聞の内容もだいぶ濃くなってきたように思います。今年も皆様に楽しんでいただけるように編集を頑張ろうと思います。（太田正弘）